

マテオ・リッチ書簡集『利瑪竇書信集』訳注稿(一)

安部 力

はじめに

本訳稿は、一六世紀(明朝末期)に始まる東アジア地域へのカトリック・キリスト教宣教師、特にイエズス会士の活動において、大きな先駆的役割を果たしたマテオ・リッチ(中国名は利瑪竇、イタリア人、1552~1610)が残した書簡に関する試訳である。

筆者はこれまで、一連の研究報告に於いて(1)、一六世紀以降の東アジア地域におけるイエズス会士の活動及びキリスト教思想の影響について考察を展開してきた。その中で、改めてリッチの布教方針を表した「利瑪竇的規矩」に焦点を当て、考察を行うことを企図することとなった(2)。

「利瑪竇的規矩」とは、現代の言葉に置き換えれば、「適応主義(適応政策)」などと表現されることが多い、イエズス会の布教方針を指すものである。この「適応主義」は、元々、イエズス会の東アジア地域の布教活動を統括する巡察師であったアレックスサンドロ・ヴァリニャーノ(中国名は范礼安、イタリア人、1539~1606)が示した方針でもある(3)。ここから、実際に、中国で活動を行った、バリニャーノの大学時代の教え子であり、神父となつてからは部下でもあつたリッチが布教活動に応用したことから、「利瑪竇的規矩」と表現されることが多いようである。この表現は、康熙帝が1707年に発した文書にも見える言葉である(『清中前期西洋天主教在华活動檔案史料』第一冊12頁、中国第一歴史檔案館編、中華書局、2003年)。また「康熙与羅馬使節關係文書第四」を参照)。そしてこの「利瑪竇的規矩」という言葉が指す内実は多岐にわたっているが、リッチが採用したこの布教方針(適応主義)は、結果として、一八世紀の清朝中国では所謂「典札問題」の発生原因となり、イエズス会士は国外退去を余儀なくされるといふ事態を招くこととなる。

この典札問題の主な要素は、「祖先祭祀」「孔子の扱い」「儒教的上帝の取り扱い」「中国人信者への秘蹟の授け方」「聖母マリアの取り扱い」などがあるが、これらはリッチの名著である『天主実義』を始めとするイエズス会士の漢文著述の中に、濃厚に見て取れる要素であり、これらの特徴をまとめて「利瑪竇的規矩」と呼んでいると推測できる。しかし、具体的な内実が曖昧なため、実際に何が清朝政府(とバチカン法王庁と)の障壁となり、国外退去に繋がったのか、その著述資料に基づいて明確にしたものは少なく(4)、本稿のように「利瑪竇的規矩」の内実を考察する上で、リッチの書簡を用いた成果は管見の限りでは皆無である。

従来、リッチの布教活動に関する分析に用いられてきた史料としては、リッチの手になる漢籍史料である『天主実義』等が収められている『天学初函』等の著作群と、所謂「リッチ史料」と呼ばれる欧文史料(5)がその両輪である。

それらの中でも、日本ではこれまで主に「漢籍史料」が、リッチを始めとするイエズス会士の中国での布教活動を研究対象とする際に用いられており、欧文史料はあまり重視されてこなかった。最近になって、欧文史料を用いた考察が増えてきているが、従来、欧文から日本語に訳出されたリッチに関する資料としては『中国キリスト教布教史』が最もまとまったものではあつたが、それとてリッチ自身の手になる部分は限られており、それは夙に矢沢利彦氏によつても紹介されている(6)。結果として、リッチがその折々に持っていた所感がどのようなものであつたのかを考察するには隔靴搔痒の感があつた。

今回、「リッチ史料」に基づいて訳出された従来の成果を参照しながら、リッチの書簡の全訳を試みたのは、これまで、「リッチ史料」の書簡部分を全訳した日本語版がなかったからである。それは恐らく、「リッチ史料」にあるリッチ自身の書簡が、イタリア語やポルトガル語など多言語から構成されて記されており、また言語史料そのものの古さなどから、高度な言語能力及び時代の社会的背景等を知悉していることが求められていたからだと考えている。

しかし、リッチの漢文著作は勿論、欧文史料や書簡などを見渡した上でなければ、中国での実際の布教に当たつて、リッチ自身が何を考え、中国をどのようなのとして理解していたのかを正確に分析することは難しい。そして、リッチが考えた様々な「布教方策」がその後の「利瑪竇的規矩」という表現に繋がるのであれば、リッチ自身の意識に寄り添いながら、その変遷をたどることと「典札問題」の要因となつた「利瑪竇的規矩」の内実に正確に迫れるのではないだろうか。

この内実を考察する資料として、リッチの残した書簡は重要な意味を持つはずである。以上の考えから、従来の研究成果群を活用しながら、また「訳稿」としては一次史料に基づかない甚だ不十分なものではあるが、今回訳稿の作成に着手した次第である。諸賢のご批正を請うとともに、一次資料であるリッチの手稿本(イタリア語やポルトガル語原典)からの全訳を心待ちにしている次第である。

【凡例】

・底本：『利瑪竇書信集(上)(下)』(『利瑪竇全集』(3)(4)、羅漁訳、台北光啓文化事業、1986(中華民國75)年)

・今回使用した底本の訳者である羅漁氏は、台湾の代表的なカトリック系大学である輔仁大学の教授を務められた方であり、中国明清初期における天主教研究の専門家である。

・リッチを始めとするヨーロッパ人神父などの人名表記については、これまでの研究に於いても一定していない。それは、中国語音を元にした漢字訳表記が揺れていることからも分かるが、どの言語(ラテン語かイタリア語かなど)の読み・表記を採用するかにも関わっており、本訳稿でも表記が揺れていることがある点はご承知おき頂きたい。(例えば、矢沢本ではリッチは「マッテオ」であり、平川本では「マッテオ」となっている。更に後藤基巴氏や柴田篤氏の『天主実義』では「マテオ」となっている。本訳稿では、主要な人物名表記について、確認できる範囲では原則

として『イエズス会の歴史』(ウィリアム・パンガート著、上智大学中世思想研究所監修、原書房、2004年)の人名表記(ヴァリニャーノ、アクアヴィヴァなど)に従うこととした。(但し、パンガートはリッチの漢名表記を何故か「李瑪竇」(同書194頁)としている)

【主要参考文献】(煩を避けて主要なもののみとした)

- ・『マッテオ・リッチ伝1』3 (平川祐弘著、1・東洋文庫141、1969年、2・東洋文庫624、1997年、3・東洋文庫627、1997年、平凡社)
- ・『中国キリスト教布教史一』2 (『大航海時代叢書』第II期 第8〜9巻所収、マッテオ・リッチ著、川名公平訳、1982年、岩波書店)
- ・『イエズス会士中国書簡集1』6 (矢沢利彦編訳、1康熙編・東洋文庫175・1970年、2雍正編・東洋文庫190・1971年、3乾隆編・東洋文庫210・1972年、4社会編・東洋文庫230・1973年、5紀行編・東洋文庫251・1974年、6信仰編・東洋文庫263・1974年、平凡社)
- ・『中国の布教と迫害―イエズス会士書簡集』(矢沢利彦編訳、東洋文庫370平凡社、1980年)
- ・『天主実義』(柴田篤著、東洋文庫728、平凡社、2004年)
- ・『イエズス会憲』付会憲補足規定、イエズス会日本管区編訳、南窓社、2011年)
- ・『利瑪竇伝』(羅光著、光啓出版社、1960年)
- ・『聖經人物詞典』(Peter Calvoressi 著、仲掌聖、曉暉編訳、上海人民出版社、1990年)
- ・『在華耶穌会士列伝及書目』(費頼之 (Aloys Pfister) 著、馮承鈞訳、中華書局出版、1995年)
- ・『中国天主教史人物伝』(方豪著、台中光啓出版社、天主教上海教区光啓出版社発行、2003年)

【注】

(1) 本件に先行するマッテオ・リッチに関するテーマを扱った訳者の成果としては、『天学初函』における『職方外紀』の位置が示すこと(『哲学資源としての中国思想―吉田公平教授退休記念論集』)所収、吉田公平教授退休記念論集刊行会編著、研文出版、2013年3月)があり、その展開例を台湾に於いて見いだそうとした成果が以下の一連の報告群である。「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(一)―祖先祭祀をめぐる問題―」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第41号、平成20年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(二)―天后聖母について―」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第42号、平成21年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(三)―現地調査における現状と課題―」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第45号、平成24年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗

教意識に関する一考察(四)―図・像を中心に(一)―」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第48号、平成27年)、「台湾におけるカトリック・キリスト教信者の宗教意識に関する一考察(五)―建築様式及び装飾備品を中心に(一)―」(『北九州工業高等専門学校研究報告』第49号、平成28年)

(2) 現在、科学研究費補助金(基盤C)の助成を受け、課題名「16世紀来華イエズス会士による異文化対応の諸相―利瑪竇的規矩」の内実と展開―による研究を進めており、この課題名にある「利瑪竇的規矩」の内実を探る一環として、本訳稿作業が位置づけられている。なお、「利瑪竇的規矩」は現在の台湾などでは「利瑪竇規矩」と「的」が省略されることもあるが、本稿では康熙帝の文書に従い「利瑪竇的規矩」としている。

(3) この点についてパンガートは「ヴァリニャーノは日本文化の豊かさについて深い鑑識眼をもち、カトリックの教義にとつて危険が生じない限り、この文化に自らの生活の仕方などを合わせるべきであると確信して、イエズス会の司祭たちに仏教の僧侶のうち最も尊敬されている、禪宗の僧侶のような地位を占めるよう指示し、現地人のイエズス会への召命のために修練院を始め、二つの神学校を開設した」(『イエズス会の歴史』191頁)と述べており、このヴァリニャーノが示した方針を、先述のように大学時代の弟子であり、神父となつてからは部下であるリッチが、中国に於いて援用・展開したと言えるであろうし、それは従来の研究成果にも示されている。(同書197頁ほか)

(4) この清朝期に於ける「典札問題」については、矢沢利彦氏がまとめられており、リッチ及びその後のイエズス会士が示した何が問題となつたのかについては、現在でも分析が進められている。(矢沢利彦『中国とキリスト教』(世界史研究双書11、矢沢利彦著、近藤出版社、1972年)、同『東西暦法の対立―清朝初期中国史―』(アドリアン・グレロン著、矢沢利彦訳、平河出版社、1986年)、また最近では桐藤薫氏の『天主教の原像―明末清書中国天主教史研究―』(かんよう出版、2014年)等が代表的な研究である。)

(5) 本稿で扱う「リッチ史料」は、イタリア人であるパスクワレ・デリア (Pasquale M. Deia 漢名：徳礼賢) 神父が編集・加注して出版した一連の資料群 (『Fonti Riciane』) を指す。これは現在東洋文庫や台湾の国家図書館で目にする事が出来るが、イタリア語で書かれているため、残念ながら筆者には解説不能であった。また、このデリア神父の作業は、タッキ・ヴェンチュエリ (Tachi Venturi 漢名：立基・宛杜里) 神父の資料編集を補完したものであり、本稿で用いた底本はヴェンチュエリ師とデリア師の両成果に多くを負っている(本書簡集が収められている「利瑪竇全集1」) 羅光の編集者序による)。また、底本である『書信集』には、ヴェンチュエリ師の詳細な「編者序」が中国語訳されており、本書簡集の来歴が明示されている。

(6) 矢沢利彦「リッチ史料について」(『東洋学報』(36-3)、1953年)。また、『中国キリスト教布教史』は、その解説にもあるように、リッチがヨーロッパ向けに記憶をたどりながら書き残したものであるため、まともは良いが「即時性」という点では、やはり本訳稿で扱う書簡には及ばないであろう。

『マテオ・リッチ書簡集』訳注稿

【和訳】(原注は紙面の都合上割愛したものもある)

1、マテオ・リッチよりポルトガル、コインブラのゴエズ神父へ

ムガル帝国は北インド地方の帝国で、聖バルトロメオ宗派の宗徒が嘗てこの地に福音を広めたと伝えられています。この帝国は、南はカンベイからベンガルに至るまでを支配していますが、熱帯には属していません。この帝国はある人間の調停により、ペルシャ帝国から分割して生まれ、シンディ川とインダス川を国境としています。河川の問題に関して、ムガル帝国はペルシャの王に対してなにかの税金を納めなければなりません。北は、モンゴル族に属しているタタール人と国境を接し、その領土は北緯三十五度に至るまでを占め、東は多くの起伏に富んだ高い山に囲まれています。それらの名前について、今まではもうはつきりと覚えていません。

今回の布布教活動のために、選ばれたのは、ロドルフォ・アクアヴィヴァ神父(クラウディオの甥)と、ペルシャ生まれでペルシャ語を話せるフランシスコ・エンリケス神父、そして三人目にマノエル・テクセイラ神父でした(1)。テクセイラ神父はここへの途上に於いて病気により亡くなられたので、再びジョアン・メスキータ神父をお選びになりました。しかし我々には何故か分からないのですが、彼は旅立ちの準備を整えて出発しようとしませんでした。全く、一体どういうことなのでしょう。管区長神父は特使と共にバチンに行かれました。彼らは一冊の大きな聖書を携えていきましたが、それは大変装丁が美しく、金のエッチングが施してあり、極めて権威を持っていると言えものです。彼らは事務が繁雑であるという理由から、もう一人増員してほしいと要求したので、三人目が派遣されることになりました。但し、これが誰であるのか、我々は知りません。もし何らかの情報(誰なのか等)が出発する前に分かれば、詳しい事をご報告いたします。もし今回の布布教活動が成功すれば、真に偉大なことであります。我々は皆、この布布教活動に喜び勇んで、このインド全体を改宗することを心から期待しています。ただ、これは上手くいった場合の話で、もとよりすべての物事には困難な一面があります。しかし、神父及びその他の人々は、この活動が成就するか否かに関わりなく、我々の神(2)休み無くみ旨が行われるよう祈り託すことを必要とします。ムガル帝国皇帝は広大な国土を有し、彼の権威は非常に大きいので、もし、彼を帰依させることが出来れば、彼が支配する人民にも、神を信じるよう感化することが出来るでしょう。我々は、神が偉大で、全能無比なことを心から信じております。我々も分かっているのは、我々は皇帝に洗礼を施すことを急いでではなく、先ずは、教堂を建て、福音を伝え広める許可を貰うことを希望するということです。最初に建てるものはそれ程立派な鐘塔でなくてもよく、先ずはその足掛かりとなるものを築いておくのです。皇帝は既に一つの大きな教堂、それはゴアにある私達の聖パウロ大聖堂と同じ位のもので建てられています。神の恵みがいつ迄もありますことを祈念いたします。

この手紙が長くなりすぎはしない気掛かりであります、神父に私の今の状

態を知って頂きたく、そして手紙を書く当初の目的を忘れないためにも、私は今少し事情をお伝えしなければなりません。

この帝国は、体面を傷つけずにイダルカオ人と講話しました。そして私達が布教区に分割して繰り入れたサルセッテ地方では、多くの帰依者を獲得し、ゴアでキリスト教に帰依したメアリの娘は、イダルカオ王国の継承者でもありました。今は皇后と共にゴアに住んでおります。

これは信頼できる情報筋によって私達は詳しい事を知ることが出来たのですが、人々は以前、一つの砦を築きました。アベシム人がすべてのトルコ人を国から追い出してしまい、そのトルコ人は本国からの支援もなく、更に手酷い打撃を被ったとのことです。総会長神父はまだ私達の主教がお亡くなりになったことをご存じありませんし、又このような状況下でなかったら、今年は更に三、四人の神父が派遣されて来る予定でしたが、どうしたものでしょう。フェルナンデス神父は良い希望を持ってモルッカに行かれました。アルブクケ神父もスマトラから引継ぎの為にマラッカに向われる途中、皇帝がこの総督に対して人材を求めてるのに応じて、今インドにいられています。何故なら、皇帝と総主教の後継ぎが皆、亡くなってしまい、皇族の殆どの方も毒殺されてしまったからです。その外、四万人以上の人民が疫病で死亡しました。これらの情報は、現在、マラッカの教区院長をしているレイタオ神父からの最も新しい手紙によるものです。彼は今交趾(コーチシナリコチン)に来ていますが、もう三日経ちました。彼と(マティアス)アルブクケ神父と一緒にマラッカに一緒に派遣されて来ましたが、レイタオ神父は私達に日本に関する大きな良い報せを持ってきてくれました。それは、日本を支配する五つの王国のなかの重要な一人である豊後の王を帰依させたというものです。これについては視察員であるバリニャーノ神父から更に多くの詳しい報告を受けるでしょうから、ここでは省略させて頂きます。この報せにより、皆が大きな喜びを手にされるでしょう。私達はマラッカで宗教的巡業を行い、又ここコチンでも行ないました。それに合わせて町中の鐘がなりました。ベンガル州に属するペスカリア(漁民)海岸の方には千人を超える信者がいます。トラバンコーレ地方で嘗て国王は、三つの教堂の焼却を命じましたが、その後国王はまた自分の財産を使って再建を命じ、元どおりの状態にさせた上に、焼却の命令を実行した者はすぐに処刑されました。教堂を焼き払った人物は今では盲人になってしまったからで、国王も自分の非を認めました。また国王はキリストの十字架をも焼却しようとしたが、これは神の奇跡によりついに実行されることはありませんでした。このようなことから、ここに居る信者達は、皆、これ以上ないほど興奮し、十字架を高々と掲げて、厳粛に礼拝を行い、神を讃えました。ここコチンについては、神父も既にご存じのとおり、聖トマス時代の信者の古い村があり、この村は嘗て、聖トマス派の宗徒がベスカリア地方より更に遠くまで到っていたことをはつきりと示していますし、更にここはトマスが命を投げ出した地でもあるのです。彼らは朝にはお祈りを捧げるので、礼拝についての進展を促しているところです。ただ、惜しむらくは、現在はアルメニア籍の主教達がこの地を管理しているということです。コチンの君主の妃で名前をシメオンと

いう者が心服しており、且つこの地の総主教であるという理由から、そして又、
 教皇の許しもなく正統な言い分もないのに、ただキリスト教徒でない者達が心
 服しているという理由で、この地の信者をすべて彼の管轄下に置いていたのだ
 す。この総主教の名はアバロと言ひ、教皇が第四品(補祭員)に選ばれた人物
 で、善良な人物なのですが、彼は、私達イエズス会の人間が彼の教区に入るこ
 とを許しませんでした。しかし、現在はシモンが恐れを抱いていること、そし
 て神の恵みにより、私達と協力し彼の管轄する神父全員と一緒に、その
 中には一人六品の位階(にある修道士)で大変権力のある人も含まれ、ローマ
 教会との合致を目指しているのです。彼らは皆、ポルトガル式修道士の服装を
 し(髭を蓄え、私達が持っているのと全く同じようなミサ用の服装をしてミサ
 を執り行います。彼らは、ミサに小麦で作った餅を用い、饅頭は用いません。
 彼らは先人が執り行ったようにはせず、ただ聖体拝領するだけで、聖なる血(葡
 萄酒)は飲みません。しかし、他の六つの聖事(スクラメント)は、堅振(按
 手)と塗油とを合わせて始めています。彼らは、私達の様式に合わせて、教堂
 を建て、今年また皇帝と教皇に手紙を書き、二つ(彼らと我々と)の教堂の間
 には何も本質的差異はなく、言葉を変えて行い、それは私達の礼拝や儀式を吸収
 したいからで、その中にはミサ用の祈禱書を印刷し、ローマの聖經日課も翻訳
 するという計画もあります。これはつまり彼らが本来の礼拝や儀式を欲して
 いるということの証明であり、今は、やはりラテン文形式と同じミサを行って
 います、なんらかの祝慶日にラテン文を用いたミサを行なうこともを希望し
 ているのです。私達が儀式を行なう際に、巨大な楽器を用いたり、民衆の歌舞
 を伴奏とするなど、このような事柄に関しては枚挙にいとまがありません。
 願わくばあなたの神聖な祈りとミサにおいて私の祈りがあらんことを。
 あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより謹んで申し上げます。

一五八〇年正月十八日 コチンにて

(訳文注) 本書簡は「ポルトガル語原文」である。平川『リッチ伝』には訳出されて
 いないが、管見の及ぶ限りで、リッチがヨーロッパ宛てに書き送った現時点で最初の
 書簡としての価値を有していると言える(底本編訳者注)。また、本書簡を始めとす
 る、中国人以前のリッチの見解については、矢沢『中国キリスト教布教史一』(1
 43頁-第二章)が参考になる。

(1)この部分はバンガート本102頁を参照。

(2)「上主」「天主」の訳語をどうするかは大きな問題であるが、ここでは新共同訳
 『聖書』(日本聖書教会、1998年)に従い「神」とした。

【中国語・原文】(底本原文から可能な範囲で常用漢字に改めている)

一、利氏致葡萄牙孔布拉城徳・高愛神父書

蒙兀兒是北印度的一個帝國、相伝聖巴爾多録茂宗徒曾在那裏伝過福音。這個
 帝國南部自康巴雅至孟加拉、不在熱帶区内、它是由一位中間人裁定、自波斯帝
 国分割出来的、以辛德河或印度河為界。基於一些問題涉及河流關係、蒙兀兒帝

国応付給波斯王一些税金。北方則與韃靼人為界、他們也屬於蒙古族、其地理範
 圍直至北緯三十五度、在東方則有很多高山起伏、至於它們的名字現在我已記不
 清了。

為了這次傳教工作、就選派了我們的羅道爾富、阿桂委瓦神父、以及曾出生於
 波斯而會波斯話的方濟恩利格神父。第三位是瑪諾愛耳、德塞伊拉神父。後者在
 路上因病而死亡、因而再選若望墨格塔神父。但我不知道為了什麼、他没整裝就
 道。我們確實不知道是怎麼一回事。省會長神父是與特使同去巴撒因的。他們還
 帶去了一部大型聖經、由於它的裝訂精良、燙金十分美觀、可稱極具權威。由於
 事務繁雜、他們請求再增加一位、這樣、就安排了第三位。但是、我們不知那人
 是誰(按補充這位的是孟塞拉德神父、若是在開船之前、我們獲知任何消息、我
 將向神父報告詳情。這事如能成功、真是一項偉業。我們全体都為此而鼓舞高興、
 我們將滿心期待著、想歸化全印度呢!只要是順利的話、固然一切事也有它困難的
 一面、神父以及其他的人們不管這事已經成就。總要不停地託付於我們的上主才
 行。蒙兀兒皇帝佔有極大的国土、他的權威非常的大、一旦他歸化了、他就能感
 化他的人民信天主了。我確實相信我們的上主是偉大而又全能無比的;如我所
 瞭解的、我們暫不急於給皇帝付洗、而只希望從他那裡獲得建造教堂、宣講福音
 的許可。最初的建築不是高大的鐘塔、而只是打下基礎。皇帝早就該建造一座大
 的教堂、如在臥亞地方我們的聖保祿大教堂一般。願上主永受讚美。
 我不知是否這信寫得太長?只希望神父瞭解我、使我不忘忘記寫信的目的、我
 要給您敘述更多的事情。

這個國家榮譽地與依大剛人言和、又將我們劃入沙士德地方、在這裡我們獲得
 了很多的歸化者、梅利的女兒在臥亞進教了、他是依大剛王国的繼承者。現在皇
 后也在臥亞住下。人們曾建築一座城堡、因為我們由可靠的消息獲悉、阿貝辛人
 將所有土耳其人逐出國境、而這些土耳其人又缺乏本國之支援、故倍受虐待、總
 會長神父還不知道我們宗主教逝世的事、也沒有在這境遇上、今年再派遣三、四
 位神父來、怎麼辦?喬治弗能德神父帶著很好的希望去了摩鹿加、瑪弟亞阿布格
 神父、他想自蘇門達拉去接替、為此、他現在來印度向皇帝的總督尋求人才、因
 為皇帝和他的一切繼承人全都死亡了、還有大部分的貴族全被下毒、另外四万多
 人民亡於瘟疫。這些都是來自杜瓦德律董神父处的最新消息、而他是馬六甲区的
 院長神父。現在他到達交趾已有三日之久、他是與瑪弟亞阿布格神父本人一同前
 來的、而且他也給我們帶來自日本方面的好消息。龐高王歸化的新聞、他是日
 本所有五個王国中主要的一位、神父將在視察員神父的信中看到更多的詳情、藉
 此、提前略為稟告、使大家分享這大喜樂。在馬六甲舉行了宗教遊行、在交趾也
 舉行一次盛大的宗教遊行、而在城市中鳴鐘相應。在漁人海岸方面、那是屬孟加
 拉地方的一部分、有了一千教友。特拉汪高烈地方、国王下令燒燬了三座教堂。
 後來、他又下令以自己金錢重建、使它們恢復了原狀、而且執行這項禍害者已被
 判刑、現在說燒燬教堂者是一個瞎子、他也承認了他的錯誤、而又想燒燬一座十
 字苦像、但由於天主的奇蹟、始終沒有得逞。為此、現在這些在場的教友們、都
 以無比的興奮、又把十字架高高掛起來、舉行隆重的敬礼、以光榮天主。在這裡
 靠交趾的地方、神父很可能已知道了、有一個古老聖多默宗徒時代的教友村、這
 村落顯示出聖宗徒曾在以前、就到過漁民海岸更遠的地方、而且是他致命的所在

地。這裡真該供人們朝拜、並進行開發、可惜直至今日、還是由亞美尼亞籍主教們管理。現在、由於交趾土王的皇后熱忱、一位名叫西默盎的、由於那裡教區的總主教、既無教皇的諭函、又無真實的理由、只是由於教外者的熱心、而他的属下全都是教友。這位名亞巴郎的總主教、他是教宗庇約第四所選拔的、是一位良好之人、他不讓我們的人進入他的教區。現在、由於西默盎的怕懼、並天主上智的安排、與我們聯合起來、一併與他的總六品神職也在內、他是其中的一位很有權勢的人、公開與羅馬教會合一、他們都穿上了葡萄牙式的神職人員的服式(留着鬍子)、穿着一如我們所有的祭衣、舉行彌撒主祭、用麪餅舉行彌撒、而不是用饅頭、不如他們的先人所舉行過的、人只領主體、不領聖血、也接受其他六件聖事、只是將聖振聖事與傅油聖事合併起來。他們按我們的形式建造了教堂、今年又致函教宗並皇帝、声称在二個教會之間、毫無差別、只是語言不同而耳。因為他舉行禮節都在古城、他們要引進我們所有禮儀和禮節、而且又在那裡計畫印刷彌撒經本、羅馬日課經也將要翻譯、這就證明他們本來喜歡自己的禮儀、而今却就和拉丁禮彌撒一樣了、他們希望在一些節日慶辰上、也用拉丁文來作彌撒聖祭。在舉行我們的禮儀時、選用巨型樂器和民衆的鼓舞而伴奏、還有其他情形不勝枚舉。

請在您的神聖祈禱與聖祭中多記念我。一五八〇年正月十八日 撰於交趾

【和訳】

1—(一) リッチよりデ・フォルナリ神父へ

イエス マリア キリストの代理者である極めて尊敬すべき神父様

願わくば神の恵みが私達の魂の上に満たされん事を。

今年はまだ神父からのお手紙を受け取っていませんが、大変気掛かりです。お体は健康でしょうか。神父の神聖な職務は順調なのでしょうか。去年私の近況をお知らせするお手紙を差し上げました(一)。現在、教師の仕事が忙しいのですが、なんとか暇を見付けて、簡単なご報告を差し上げます。

インド地方に関する数々の良い報せは既に各方面に広まっているようですが、その大要は以下の通りです。日本の豊後地方の王と、その王子や中枢の人物の多くが既に洗礼を受けたそうです。近い将来、その国王が支配する五、六個の国のみならず、日本全体もすべて帰依(改宗)させることが出来ると期待しております。メアコ(都)にはオルガンティノ神父とジュリオ・ピアニ神父のお二人がいらつしゃって布教活動をされており、すでに一万二千人に洗礼を授けたとのこと。インドのペスカリア(漁民)海岸一帯でも既に千人が洗礼を受け、トラバンコレ海岸地方では異教徒である国王が以前、人を派遣して私達の教堂を焼き払おうとしましたが、木製の十字架が奇跡を起こして、国王の部下が盲目になってしまったために国王は恐ろしくなり、その後の破壊活動をやめ、打って変わって教堂の修復を始めたのです。ここコチンには所謂古代聖トマス派宗徒の末裔が居り、彼らの総主教は私達神父を通して、教皇に対して保護を求め、同時にローマ教会の執り行うスクラメント、作法、聖經日課やミサ等、一切を受け入れたのです。

ムガル王朝のアクバル大帝はインド屈強の帝王で、彼は七十余りの属国を支配し、騎兵三十万、戦闘用の象二万頭を保有しています。アクバル大帝は以前、博学なイエズス会士を指名して、西洋の法律に関する書物を持ってこさせ、それにより彼らを優遇することを約束しました。ここコチンからゴアまでは約2カ月の道のりですが、そのため一人の特使と二匹のラバを派遣して二人の神父を案内できるように計りました。しかし実際出発した神父は二人ではなく三人でした。その中にはルドルフ・アクアヴィヴァ神父とペルシャで生まれ育った神父でした。彼(エンリケス神父)はムガル帝国朝廷で使用されているペルシャ語を話せました。時間がありませんので他の細かいことはこれ以上申しません。来年、この事についての良い、詳しい報告を差し上げます。私達は心からインド全体の帰依を期待しています。

お話は以上ですが、私もゴアに来て一年ちよつと経ちました。神父にローマ時代に教わった人文科を、私もここで簡単にですが、講義しています。現在、私はコチンに居ますが至って健康で、神父と同じ教師の仕事をしています。あなたの祈りとミサのなかに私が有りますように。神が神父と共にあります。キリストの内で最も卑しいあなたの下僕であるマテオ・リッチより

一五八〇年正月三十日 コチンにて

(訳文注) 本書簡の一部は平川『リッチ伝1』253-27頁を参照。

(一) ここに出てくる「去年送った書簡」は未見である。本底本にも訳出されていない。但し、底本には編訳者による詳細な注が付されており、参考になる。

【中国語・原文】

1—(一) 利氏致德・富爾納里神父書

耶穌・瑪利亞 在基督內極可敬的神父

願基督的平安常充滿我們的心靈!

今年尚未收到您任何消息、非常想念。不知您的貴體健康否? 您的神聖職務進行如何? 年前我曾給您去信、報告我的近況。目前雖然由於教書繁忙、但我仍然抽空給您略為報告。

有關印度方面許多好的消息已佈佈很廣、其要旨如下。在日本彭高地方的番王其王子和許多要人已接受了洗礼。我們希望不久的將來、不但所有的國(約五、六個)而是整個日本都能皈依基督。在麥亞高地方有奧爾岡提諾和皮亞尼兩位神父在那裏傳教、受洗的有一萬兩千人之多。多在印度漁民海岸一帶、曾有一千人受洗、在特拉汪高烈海岸一帶、異教的國王曾派人要焚燒我們的教堂、但隨後由於害怕而終止、因為一座木十字架顯了奇跡、國王的一位部下忽然眼瞎了、因此國王由破壞而修建教堂了。在交趾這裏有所謂古代聖多默宗徒所傳的教友、他們的總主教曾藉我們的神父傳話、向教宗表示擁護、也接受羅馬教會所有的聖事、禮儀、日課和彌撒經書等。

蒙兀兒王朝亞格伯大帝是印度很強的帝王、在其下有七十餘國附庸國、騎兵三十萬戰象兩萬。曾指名要博學的耶穌會士、攜帶西洋有關法律的書籍前來、也許下將要優待他們。從那裏到臥亞兩個月的行程、因此曾派遣一位特使和兩匹馬騾、

以便帶領這兩位神父前往。其實我們打發去的神父不是兩位、而是三位、其中有羅道爾富・阿桂委瓦神父與另一位生長在波斯的神父。因為通達波斯語、這正是蒙兀兒王廷所使用的語言。基於時間短促、其它細節不敘述了。明年等候此事的好消息、我們正等候全印度的焗化呢！

話至此擱筆、我在臥亞已一年多了。對神父在羅馬所教的(人文科)、我也略為講授。目前我在交趾身體健康、担任同樣的教書工作、在您的聖祭中勿忘記我、天主與您同在。

您的在主內不肖弟子 利瑪竇敬上

一五八〇年正月三十日 撰於交趾

【和訳】

1—(二) リッチよりマゼリ神父へ

イエス マリア キリストの代理者である極めて尊敬すべき神父へ

願わくば神の恵みが私達の魂の上に満たされん事を。

私があなたに知って頂きたいことは、私は生みの親からは遠く離れてしまい、私自身もかなり世間に染まってしまいました、それ程辛い想いはしていません、ということなのです。それは、実の父親よりも深く敬愛する、あなたが居られるからということなのです。したがって、あなたからのお手紙が、どれほど私を喜ばせるか、お分り頂けると思います。何故かは分かりませんが、時々、脳裏に突然、ある種の幻影が浮かびます。また、これも何故かは分かりませんが、一種の郷愁を感じるのです。これは私にとって良い事のように思えます。私は今迄このような郷愁に捉われなことを希望していたのですが、今は、ローマ神学校の神父や同学の兄弟達が大変懐かしく思われ、私が彼らをいかに敬愛していたかを感じるからです。現在このような状態の私ですが、幸いにもローマ神学校に入学して教育を受けられました、同学の諸君はもう私のことを覚えていないかも知れません。しかし却って、彼らは、私の脳裏に鮮明に浮かび上がってくるのです。私は卑しい身ですが、常にあなたや、神学校の同学、神父達のために祈りを捧げ、懐かしく思っています。涙を流しています。ですが、私はこの第二の詔(布教活動)に大変満足していません。しかし宿舎内に院長や同学の兄弟が一緒に住めるのなら、私の今の見方では、これ以上良いことはないと思うのです。ところがこの院長はこの思いつきは不要であると申されますし、上司や他の神父達も余り私を歓迎してくれず、ローマ神学校時代と同じようには参りません。私は院長に申し上げました、見た所、神は私に特別の恩恵をお与えになり、この世において私を慰めてくださる上に、私が遣わされるところにはすべてローマに居た時に各国の同志から受けた愛護を、全く同じようにここでも人に愛されるとお考えになったのだと私は思うのです。この私が皆に愛されるという点に関して、私は他人が私の至らない欠点を気に掛けないからということとは分かっています。

フアブリシオ・パツラヴィチーノ神父の手紙に、嘗てこの地で布教活動を行なった神父と修道士達のこと書かれていて、それはこの手紙にも同封してい

ますが、今回は私とバジオ神父の二人についてのことだけを報告いたします。何故かは分かりませんが、私達二人は一緒にこの地に派遣されて来ましたが、バジオ神父はすぐゴア会院の切り盛り役を任せられ大変忙しくしています。私自身の問題に関して言えば、総会長の命令により、管区長が管轄している、未だ神学課程を終えていない修道士達と一個所に集まって、神学課程を終了させないとのことなのです。ですから、バジオ神父には仕事が完結したならば、又別に省修道会の金庫係を担当させるおつもりの方です。但し、この仕事は比較的簡単ですが。去年、私はゴアで一年間で教師の職にありましたが、ここコチンでも又四、五カ月の間、教師の職を続けています。病気の療養のために此処に来たのですが、このコチンで私は司祭に叙品され、聖アンナの日(七月二十六日)に非常に荘厳なミサを行い、同僚の神父達や修道士達に大変祝福されました。現在、管区長は私をゴアに派遣したいよう、そのためにバジオ神父や多くの神父に神学課程を終了させようとしているのです。

願わくばあなたの神聖な祈りとミサにおいて私達を祈られんことを。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより

一五八〇年十一月二十九日 コチンにて

(訳文注) 本書簡の一部は平川『リッチ伝1』27頁を参照。

【中国語・原文】

1—(二) 利氏致馬塞利神父書

耶穌 瑪利亞 在基督內極可敬的神父

願基督的平安常充滿我們的心靈！

我願意您知道、雖然我離開肉体的父母很遠、而我本人又仍相當世俗化、但我並不感到十分難過、因為有您在、我愛您超出愛我的父親。因此由此可以瞭解您的書信是多麼讓我高興啊！我不知道為什麼有時候忽然某種幻想呈現在我的腦海裏、也不知道為什麼給我造成一種憂愁感、這為我好像是件好事、我也曾希望不曾有過它、非常想念羅馬學院的神父與同會的兄弟、我是如何地愛他們、現在仍然如此、我曾有幸在這學院裡誕生、在這裏接受教育、他們也許不記得我了。但他們却鮮明地呈現在我的腦海裏。我雖卑微、但常在祈禱和淚中懷念您與學院的其他神父和兄弟。雖然心中很滿意這第二聖召(傳教)、且認為是我進修會之後天主的一種最大的恩惠。但是能在學院內和院長及同會兄弟同居、在我今日看來、乃是一樁大幸事。但是院長請不要因此推想這邊的長上和別的神父們待我不好、不像羅馬學院的會友們一樣愛我。我可以告訴院長一事、看來天主願意賞我一種特恩、在世上另外安慰我、天主使我所到之處、都像在羅馬時受各國會友的愛護、這樣我到處受人愛護。對這一點、我承認是他人特別不計較我的缺點的緣故。

在巴拉威契諾神父的信中、曾提到在這裏工作的神父與修士們的消息、但是在這封信中、我只給您報告巴範濟神父和我的消息。也不知道為什麼我們倆常被派在一起、他在這裡不久便担任臥亞會院的理家神父、十分忙碌。現在談我的問題、自總會長有命、要省會長把所有尚未讀完神學的修士們聚集在一處、務必把神学修完。因此巴神父的職務結束了、另又讓他負責會省的司庫、這個職務較輕。去

年我在臥亜先教了一年書、今在交趾繼續任教已四、五個月了、因有病來此修養、在這裡我領受了鐸品、在聖亞納節日(七月二十六日)隆重地举行了首祭、本院的神父們與我的學生們還聯合慶祝一番。現在省會長要把我們遣回臥亞、以便和巴範濟神父與其他許多神父修完神學。

神父、在您神聖的祈禱與聖祭中不要忘記我！

您的在主內不肖弟子 利瑪竇敬上

一五八〇年十一月二十九日 撰於交趾

【和訳】

1—(三) リッチよりコインブラのマフエイ神父へ
イエス マリア キリストの代理者である尊敬する神父へ

願わくば神の恵みが私達の上に満たされん事を。アーメン。

神父、私は、本来ならばイタリヤ語でしか手紙を書かないのですが、神父が読みやすいように、頑張ってポルトガル語で手紙を書いてみましたので、その点をご寛恕ください。今年、神父からの手紙を受け取り、大変慰められました。キリストを敬愛するという点で、神父に非常に感服しています。またその上、手紙にもありましたポルトガル語で布教事業を行いながら、我々の布教史を執筆されているということも十分承知しております。ですから、なんとかあなたの執筆が完成するのに役立つことも考えております。お耳に入れたくない事は、これはもう三、四年の間待っていたことなのですが、日本からバリニャーノ神父が来られる事です。神父はあなたの布教史制作は大変重要な作業である、とおっしゃっていました。私のはっきり知っているのは次の通りです。第一に

布教事業の発展に尽力できるのは、常に謙虚に記録を行なう人で、インド地域に関する事務全体を包括的に人です。私はあなたがバリニャーノ神父のことが知って居られるか分かりませんが、バリニャーノ神父は同様の物を執筆されたことがあります。第二にバリニャーノ神父が書かれた物は、大変正確で信用できるものです。何故なら、バリニャーノ神父はインド教区に於いて最も有能な神父であり、その人が執筆するのですから、当然権威を備えることになりすし、第三に私たちは、バリニャーノ神父の指示でインド教区の活動を知らずし、東方の様子、中国や、モルッカ、日本などの事も、あの方以上に事情に通じている人は居ないと言えるのです。バリニャーノ神父は早くからかの地に入り、休みなく執筆を続けていらつしやいます。神父、このことを軽くお考えもならないで下さい。何故なら、所謂インド教区は想像よりも更に困難が多いからです。二年前、私はバリニャーノ神父やその外の神父に手紙を書きました(1)。しかし、今迄返事はなく、失われてしまったのか、もう返事を得ることは出来ません。このような状態で、どうやって、(東方布教の)資料を神父は得られるのでしょうか。モルッカは日本に似ていますが、色々な方面でおもしろい発展の仕方をしています。この海は現地(のルソン)人以外うまく航行できません。それも一年のうちで限られた時期だけ航行できますが、他の時期には航行できず、その外に台風も関係して来ます。第四に、私達は、バリニャー

ノ神父が滞在している間に、布教史に今迄発生した全ての重要なことについて記載されることを期待しています。例えばノブナガ(NOBUNAGA 信長)の帰依や、その外多くの民衆が帰依したことなどです。第五に、これは大変良いことなのですが、ムガル帝国やその王アクバルの布教政策に期待がもてます。これについては、年次報告に詳細がありますが、神の偉大な恩恵が私達の上にあったことがお分り頂けると思います。これは日本におけるものより更に偉大な恩恵です。私はこの帝国で今起きている反乱のことについては述べてきませんでしたが、それはそのようなことに関して注意を払ってなかつたからです。私が神父にお伝えしたのは、神父より私の方が事情を理解できていますし、今現在私はここに居るので、この目で見た事をお伝えできるといふ事なのです。それからインドや日本に関して書かれた注釈書等は明らかな間違いだらけです。私の親友は教会の事務に関心があつて、私に言うのです、気が付いたことを指摘して記録しておこうか、と。私は答えました、それは良いことだ、と。彼にも感謝しなければなりません。私は神父がされる仕事が一류で、完璧であることを願っているのです。もし、あなたが途方に暮れたならば、私達は提案したことを喜んでいたします。もし、神父がお望みであれば、それらの教区に関する事柄をまとめて報告いたします。但し、それらは、私が今迄、そしてこれから観察する事柄になりますが、注釈を加えて全てご報告いたします。

去年、嘗て聖フランシスコ・ザビエルが住んでいた場所へ行って参りました。テクセイラ神父が紹介したことがあります、ここでは長くなりそうですので省略いたします。神父にお願ひがあるのですが、創始者(イグナチオ・ロヨラ)神父の新しい伝記を送って頂けないでしょうか、印刷状態の良いものを一冊で良いのですが。

神父が何処にいらつしやり、何処に行かれるかに関わりなく、私がお挨拶差し上げたことを同窓の友達に報せて頂けないでしょうか。もしコインブラに行かれた事がありましたら、シャバーノ神父などにも忘れずに一言ご挨拶をお願いいたします。私の近況に関しては、私はまだ言語上の問題から脱せずにあります。去年、ゴアで本を読んでいる時は、まるでギリシャ語を読んでいるかの様でしたが、管区長神父が私に手取り足取り講義してくださったので、三ヶ月経たないうちに一定の効果を上げることが出来ました。また他には、少し病気を患い、多くの時間を取られましたし、その間は頭を上げることも出来ませんでした。それで神父達は私をコチンに送り、そこで四、五ヶ月読書などして静養し、その後、神父に叙品されました。そして、再びゴアに送られました、言語の習得を終らせるのか、それとも私の人生を終わらせるのか、分かりませんでした。何故ならゴアは病気が大変多く発生する土地なのです。全てはおぼし召しのままです。願わくばあなたの神聖な祈りとミサにおいて私が在すことを。これが私の心からの願ひです。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより

一五八〇年十一月三十日(聖アンドレの日) コチンより

(訳文注) 本書簡は本文中にもあるように、「ポルトガル語原文」である。また、本

書簡の一部は平川『リッチ伝1』26頁を参照。
(1)これらの書簡も現在未見である。

【中国語・原文】

一—(三) 利氏致孔布拉馬費伊神父書 一五八〇年十一月三十日 撰於交趾
耶穌 瑪利亞 在基督內極可敬的神父…

願基督的平安常充滿我們的心靈！阿門！

請神父原諒我，因為我本來只能用義大利文寫信，但為神父的方便，我勉為其難，用葡萄牙文給您撰寫了。今年我曾接到神父的來信，給我莫大的慰藉，您是我因於愛基督而非常欽佩的人，而且我深深地瞭解到，您在葡萄牙曾專務於天主的事業中，正如您在信上所稱的，在寫我們的傳教史。我曾設法，怎樣能協助您完成這部歷史。我希望神父知道，范札安神父自日本來到，這是已期待了三四年的事。以神父而言，您的傳教史是件很重要的事。我知道得很清楚，第一，凡在傳教事業上盡力協助的人，往往也是勤謹記錄之人，而且包括全印度方面的事務。我不知是否您經過他，做了類似的作品。第二，他所寫的事務的標準確可信，因為他是印度省最有能力的神父，自然具有權威。第三，我們可由他獲知印度省的傳教事務，以及東方的消息，如中國、摩鹿加以及日本等方面，可說沒有任何比他知道得更多，他早去過那裡，而且不斷地寫作。神父不要以為這件事是容易作的。因為所謂印度比所想像的要大得多。兩年前我曾寫信給視察員神父，以及其他日本的幾位神父。但迄今為止，既沒有，也不可能獲得回音，神父您看，這樣怎麼能對某件事獲得資料？摩鹿加類似日本，它在各方面畸型的發展着。而這些海城內，除了蒙松人以外，沒有其他人在這裡航行着，那是在一年裡指定的時間，而不是在別的時季，此外還有颶風關係。第四，我們希望在他居留時期所有的寫作中記載一切所發生的重要的事故，例如諾布南加人（原註注・NOBUNAGA）的帰化，以及其他許多人民的信教等。第五，也是很好的一件事，希望蒙兀兒的事件以及他的傳教工作，由此，在年報告上可以看出，我們會看到恭敬天主的偉大事業，要比在日本的更偉大。我不敘述有這國王國中現在反叛作亂的事，因為我不注意這方面的事。我要向神父寫的，為的是要神父比我瞭解得更好，一直到現在我還在這裡，是我親眼看見的。要知道有些評論和其他來自印度和日本的信件，明顯地充滿着許多錯誤，那是我的好朋友，一位很關心教會事務的同人兄弟給我說的，他想把他想到的事全記錄下來，我答覆他說，很好，請神父多向他致謝。我願神父所有的事務全是第一流而完美的，在您徬徨不定時，我們願提出我們的建議。若是神父願意的話，我將給您做一份有關這些地區的敘述。凡是我所觀察到的和將來觀察到的，我都給您加以敘述。

去年，我曾去過聖方濟沙威住過的地方，德塞伊拉神父曾介紹過。只是太冗長了。請您給我寄一本會祖神父的新傳記，是才印好的那一種。不論神父在何處？或去何處？請將我的問候之告知我的同人朋友們，若你去孔布拉時，不要忘記問候西伯亞諾神父等。有關我的近況，是我不能脫離語言的困境，去年我在臥亞讀書時，一切似乎像在讀希臘文，因為省會長神父給我上這個，教那個，不到三個月，幾乎有一打的功課。又害一場病，就誤了我不少時間，使我始終無法抬起頭來。他們把我送到了交趾，在那裡我又讀了四、五個月的書。後來給我升了神

父，再送我去臥亞，我得知將結束學習語言呢？還是結束我的生命？因為那地區是一個多病之地。一切只有承行主旨！希望神父在聖祭與祈禱中，不要忘記我，這是我迫切的請求。

在基督內不肖的神子 利瑪竇敬上
一五八〇年 聖安德德節 發自交趾

【和訳】

2、ローマ総会長アクアヴィヴァ神父へ
イエス マリア キリストの代理者である尊敬する神父へ

願わくば神の恵みが私達の魂の上に満たされん事を。

もし、私がローマ総会長であるあなたを選出した選挙に参加できたなら、もちろんその外の神父や修道士をとらなつてあなたを祝福し、私達が敬愛するあなたが、最高の上司であり、私達の神父であるべきことを示したと思います。しかし、これらのことは、あなたと私達は大変離れていますので不可能なのですが、私の脳裏にはあなたがまるで目の前にいるかのように浮かびます。お祝いが遅くなりましたが、路程は遙か遠いのですからこれ以上早めることは不可能です。しかし、この事が却って私達に更にあなたのことを懐かしく思い出させます。私はここゴアで一段と勉学に打ち込み、神の助けを借り、私になにか手立を与えてくれるよう祈っています。しかし、私自身に言うべき長所はなく、たとえあつたとしても大変限られたものです。ですから、私はあなたがお祈りを捧げるとき、何度でも私のために祈り、私が神の助けを得られるようにしてほしいのです。よくご存じですが、この神学校にはイタリヤ籍の伝教士が結構居ります。しばらく私の事以外をお話します。何故なら、私の事は申し上げる程の事が無いからです。この同志は皆、割り当てられた仕事をよくこなしています。詳しいことは他の手紙でお分り頂けるでしょう。私と言え、最初の二年は殆ど人文の勉強をし、次の三年目に司祭に叙品（神父に昇任）されました。しかし、省会長（管区長）神父はまだ神学が修了してないからといって、私に今年も神学を勉強し、来年も神学をやり、三年の間神学をするよう仰っています。上司にも提言したようにインドになにかやろうとして来たのですから、文学の勉強ばかりでなく他の事がやりたいのです。総て命令を遵守し、神の観点に立っていったものとはいへ、私の心は満たされません。

今年、ナポリ出身のジョバンニ・パティスタ神父は大変多くの心痛を与えてくれました。彼は既に修道会から除名処分になっています。彼は総会長に対して復帰を求めたいと言っているようですが、凡そ彼を知らない人は、彼を見てまるで外見は聖人のようだといいますが、それは上司に対して謙虚な姿勢を示すからで、その謙る態度が上司に寛大さを求めるのに効果的なのです。私は総会長に進言したいのですが、あなたが彼の詐欺にかならないよう望みます。このほかに、彼にはいささか気違いじみた面があり、会の方針に文句を言ったりしますし、行動にも慎みがありません。会院の中でこのようなのですから、会院の外でもこのようなでしょう。彼は、怨みを晴らすべく、部外者に対して申し立てを行い、或いは郵便物で、会の方針や上司のなかの何人かに対して申し立てを

したりしています。以前には、夜、扉を飛び越えてこの地の回教(イスラム教)徒の家に忍び込んだりして、いつも彼らへの失礼な行為のことで上司と言い争っているのです。他の事件に対しては既に彼があなたに手紙を書いたことも知っています。もし、彼の復帰をお認めになるのなら、彼は以前のままで(態度を改めず)、上司ともうまくいかなければなりません。これに対して、彼はもう悔い改めて、簡単にこの会の方針を受け入れるだろうと信じている人もいます。しかし、実際もし彼がここに居たなら、そのような状態はがらんと変わってしまったでしょう。

会の事務に関して、私が見たところでは、管区長のしつかりした指導と戒めに基づいて十分順調に行なわれ、常に修道会の善良な精神の布教と完成を目指しています。ただ、ここ二、三年に管区長が派遣された院長は余りこの会院の人たちに歓迎されていない様で、とりわけ、現在の院長は歓迎されていません。上司が気付かない以外、この会院全員が少し気が合わないことに気付いています。これは総会長神父に是非知って頂きたいのですが、ここゴアに居ることは、スペインのどんな地方に居ることに比べても、一般の人にとつても、会士達にとつても、間違いなく不名誉なことと分かります。それは、長年この民族の中で起きていた悲しむべき行為によるもので、それが人の心を寒からしめ、恐れさせてきたからです。学院内の人も、その他の人もはっきりとは言わず、まるで大したことではないかのように振る舞いますが、内心ははっきりと痛感しているのです。このような状態です。みんな憂鬱になって明るくなく、学院のなかの上下関係も互いに尊重することが出来ないでいるのです。私はこのような災いの種を除き、院内の人々が上司に対して陰口を叩くようなことを止めさせるよう報告したのですが、管区長は取り上げてくれませんでした。これだから人材が不足しているのです。けれども、最近この地に來られる神父がようやく増え始め、その中には素晴らしい才能を持っている人物もおられます。ところが、この間にもこの年上の神父と顧問達はこれらのことを全く報告しません。大方、自分の地位を守るのに精一杯か、他の誰かにその地位を脅かされるのが恐いのでしょうか。

今年学院には新しく哲学の講義が設けられましたが、同時に一つ新しいことも決まりました。それは、インド人の住民の子弟は私達の学院内の講義に参加しては行けないということなのです。皆は、この規則に反対していましたが、規則通り実行されました。これでは、一人のインド人学生も私達と一緒に哲学や哲学を学べず、インド人学生はただラテン語を読み、少しばかりの良心に関する問題を解決する方法を学べるだけなのです。この事は重要なので敢えて失礼を顧みず報告しておきます。このような規則を作り実行するのは、全く虚偽の理由によると思います。上司たちは、この土地の人がなまじ多く、このことを学ぶと傲慢になり、些細な仕事などしなくなってしまうだろう、等と仰うのです。これは私達総ての修道士に言えることであり、インドの学校だけでなく、ヨーロッパで学ぶ人間についても言えることではないでしょうか。こんな理由で哲学や哲学を教えることを止めて良いのでしょうか。此の土地の人がどんなに博

学になるうとも、白人の間でなにかしらの地位を得ることはまったくくないのに、です。また別の一面から言えば、私達の会にはもとより差別主義などないはずですが。インドでは徳に恵まれた多くの先駆者たちが学校を開き、インドの学生を招き入れてきました。もし、今回決まった規則を実行するならば、故意に神父達を愚かな、身に付けるべき学識に欠けた人間にしてしまうことになりはしないでしょうか。いずれ、これらの青年は神父に昇任し、信者たちを管理しなければならぬのです。もし、非キリスト信者の中に交じって彼らの問いに答えられず、又他人の信仰を堅固にするための道筋も講義できないのなら、どうやって神父たるものが出来るのでしょうか。私達は神の奇跡を期待していますが、私が見るかぎりこのような状況では神も奇跡など起こし給いません。辛うじてしか心の問題を解決できない人間では、これからの布教活動の総ての責任を負うことなど到底出来ません。第三に、この地の人々は真に搾取されていて、これが私の心を最も悲しくさせます。今迄誰もこの地の人を引立てようとはせず、只私達だけが救いの手を差し伸べたのです。ですから、彼らは私達に特別親近感を持つて居るのです。それなのに、もし今、私達神父までもが、彼らが知識を身につけて、その後社会において地位を得、出世するのをよく思っていないなどと分かってしまったならば、彼らの敬愛が怨みに変わり、私達のインドにおける布教活動の主要目的である異教徒を改宗させてキリストの聖なる信仰を保持させる、ということが出来なくなることを心配しなければなりません。

以上が、まず総会長であるあなたに急いで知らせるべきことです。但し、私の判断は未熟であり、経験にも乏しいので、ご相談申し上げました。これらが私の良心から出ている事だと分かっていると信じていますし、今申し上げたことは他の誰にも意見されたものでもありません。全く私独自の判断です。神の栄光の為に止むなくご報告申し上げたのです。あなたの英知によって補えることが有れば補ってください。もし出来ないのであれば、他の権威ある人物や正当でない判断などを仰ぐことは望みません。彼らが神の栄光とイエズス会の名譽、利益の為を考えるよう願います。そしてあなたの聖なる祝福を。

あなたの忠実な下僕であるマテオ・リッチより。

一五八一年十一月二十五日 ゴアにて

(訳文注)本書簡の一部は平川『リッチ伝1』28頁以降に訳出されているが、この書簡について平川氏は「彼(リッチ)はローマの大学で恩師であったイタリア人クラウディオ・アッカヴィーヴァが耶蘇会の総会長に選出されたという報せを聞くと早速祝賀の言葉を送り、かねて近況を次のような熱のこもった文字に綴っている(中略)それは穏やかな人柄のリッチにあつては稀な鋭い語調の手紙だが、リッチはアッカヴィーヴァ総会長宛ての第一信には胸中の思いを吐露してはばからなかったであろう。」と評価し、「この手紙はリッチの学問上近業の他にキリスト教徒リッチの「原住民観」ともいえるべき見解をも示している点、彼が後にシナへはいつてから取った態度を予示している点、極めて重要と思われる」とされている。このため、本書簡について多くの部分を訳出しており、大変参考になるが、全体の訳では無いため、屋上屋を架すことを承

知の上であえて全文訳を試みている。なお同書はこの書簡が書かれた時代の社会的背景にも触れられており、是非参照されたい。

【中国語・原文】

二、致羅馬總會長阿桂委瓦神父書

耶穌 瑪利亞

在基督內極可敬的神父…願基督的平安常充滿我們的心靈！

假使我參與羅馬選舉總會長您的話、我自然會伴同其他神父與修士們吻您、以示我們敬愛的神父您當選、最高的長上、我們的公父。雖然這是不可能的、因為我們彼此相距太遙遠了。但是在我腦海裏、仍然視您如在眼前、雖然道賀有些遲延、但路途遙遠、不能提前、而這却更使我們想念您。在這裏我正在加緊學習、托天主的幫助、祂給我所有的方便、雖然我本人沒有什麼長處可言、即使用也是有限的。因此希望您不時在您的聖祭祈禱中多為我祈求、把我托靠給天主。您曉得在這個公學中、在全印度有不少義大利籍傳教士、暫時不談我了、因為正如我所說的、乏善可陳。所有會友都有工作、也都很好、神父您從其它的信函可知其詳。至於我、頭兩年幾乎都在修人文科、在第三年中我升了神父、省會長要我尚缺的神學修完。所以整年我在進修、來年仍應修神學、即第三年神學。正如我對長上建議的、希望在印度能做些什麼、而不只是讀書、這一切都奉命而行、但如以天主的看法而言、我不能因此而感到安慰。

本年拿坡里籍的喬瓦尼·巴第斯塔神父給我們製造很多的痛苦、他已被會方除名。據說他又要求總會長收留他。凡不認識他的、皆認為他的外表好像一位聖人、習慣在長上前顯示謙虛、以他有效而謙下的態度要求寬恕他。我願向您總會長進言、希望您不要上他的當。除此外他尚有些瘋狂、說會方的壞話、他的行為也頗不檢點、在會院中如此、在會院外也如此、當眾報怨、也向外人訴說、或在信件上向會方與長上的幾位顯貴(恩人)申叙、曾在夜間跳牆到本地回教人家中、繼續不斷地和長上爭吵對他們失敬、還有其它事件、我知道他已經寫信給您了。假使您再收容他入會、他仍會舊態復萌、和長上不睦。已有人相信他會很容易被這裏的會方接受、他如在這裏、那情形就完全不同了。

會的事以我看來、基於省會長的領導有方與警戒、進行十分順利、常設法成全與增長本會的善良精神。但兩三年以來、省會長給我們會院所派的院長、不受院中人的歡迎。尤其不歡迎他們的現任院長。除了做上司的看不出外、全院其他之人無不看出有些不對勁。這是您總會長將要知道的、因為在這裏、較西班牙任何其它地方、或是在俗的、或是會士們無不承認那些是不名譽的事、即多年以來在這個民族中所發生的可悲的行為、因此使人不免感到寒心可怕、但為院中與外面某些人而言、則視若不足輕重的事、這是大家皆熟悉的。大家因此都鬱鬱不樂、院中上下缺少友愛。我乃以此稟告上司、敬請祓除這種禍根、使院中等人勿對長上竊竊私議。省會長計不出此、必因此處人才缺乏。然近年來到此地的神父已漸漸加多、其中不無上等人材。此間年老的神父與顧問們對此事都不寫信、大約都怕自己要擔任院長之職、並且怕他人懷疑他們想謀取這種職位。

本學院內新開哲學班、同時規定一新章程、凡是印度人的子弟、都不能在院內隨班聽講。大家雖都不贊成這章程、但今年已照章實行。因此沒有一個印度修生

同我們一同說哲、神學。印度修生只能說些拉丁文、研究一些解決良心問題的方法。這件事關係很重大、所以我才冒昧進言。規定這章程、所持的理由、都不是實在的理由。他們說本地人多說些書、就自大自傲、不願意在小堂口服務、又要輕視我們一些不懂神學與哲學的傳教士。但是這些話不是也更可以向我們一切修院的修生說嗎？在印度在歐洲說哲學、神學的人、不是都可以自大大自傲嗎？然而並不因此就不教神學和哲學了。況且這邊的本地人、無論怎樣有學問、在白種人眼裏、都沒有什麼地位。從另一方面說、本會從來沒有偏袒主義。在印度這方面、有許多我們會院的有聖德有作為的老神父們、開辦學校、招收印度學生。再者、若是按照規定的章程去作、豈不是故意使司鐸們成愚人、使他們缺乏需要的學問嗎？無論如何、這些青年將來是預備升神父的、是要管理教友的。若是在這些外教人中、神父竟不知答覆問難、也不能講出道理來、以堅固人的信德、則神父還怎能成為神父呢？除非我們希望天主顯聖跡、依我愚見在這種情形下天主並不會顯聖跡。僅僅學了一點解決良心問題的人、絕對不能應付一切傳教的責任。第三、這方面的人、真是受人壓迫到極點、這一點很使我傷心。無人願意提拔他們、只有我們本會的會士、因此他們特別愛我們、若是現在使他們知道、我們的神父也不願意他們學習知識、日後在社會上能夠有地位、有職務、我怕他們要變愛為恨、而且要阻止我們本會在印度傳教的主要目的、使我們不能勸人進教、也不能使他們保守信德。

這是我首次給總會長您所急於要述說的、雖然我的判斷不夠成熟以及缺乏經驗而給您寫報告。我深信您會知道我出於善意、所言就事論事、並非由誰授意、完全是我自己的看法、為天主的光榮、我不得不給您寫這封信。以您的睿智能補救的話就補救。假如不能、我不願我所寫的在您面前引起另外一個權威、另一個不健全的判斷。但願他們以天主的光榮與耶穌會的榮譽與益處着想、茲跪求您的神聖祝福。

您的在主內不肖弟子 利瑪竇敬書

一五八一年十一月二十五日 撰於臥亞

【謝辭】

本研究はJSPS科学研究費補助金(課題番号16K02162 基盤C)の助成を受けた研究成果の一部である。

(二〇一六年十一月七日 受理)